

「結ぶ」の意味分析

著者	藤森 秀美
雑誌名	名古屋学院大学論集 言語・文化篇
巻	20
号	1
ページ	63-73
発行年	2008-10-31
URL	http://doi.org/10.15012/00000542

「結ぶ」の意味分析

藤 森 秀 美

要 旨

本稿は「結ぶ」の意味分析である。

本稿では「結ぶ」を多義語であると捉え、6つの別義に分けて分析し、多義構造を示した。

6つの別義は、〈結び目を作ることで離れなくする〉という意味成分を共通に持つもの4つと、〈構造物を作る〉という意味成分を共通に持つもの2つに大きく分けられることがわかった。

多義化の起点である意味から5つの意味が派生しており、それを動機づけるのは、メトニミー、メタファーであるという仮説を提示した。

キーワード：多義語，メトニミー，メタファー，結ぶ

A Semantic Analysis of *Musubu*

FUJIMORI Hidemi

Abstract

The purpose of this paper is to describe the meaning of *musubu*. In this paper *musubu* is regarded as a polysemic word. It is divided into six meanings and the semantic relationship between them is presented.

These six meanings can be divided into two groups: 1) Four of the six have the meaning, "in order not to separate by tying a knot." 2) Two of the six have the meaning, "in order to make a structure."

The hypothesis that five meanings are derived from the origin of the polysemic word and are motivated by metonymy and metaphor is presented.

Keywords : polysemic word, metonymy, metaphor, *musubu*

0. はじめに

本稿の目的は、「結ぶ」の意味分析である。

本稿では、「結ぶ」は次のような一連の動きであると考え、分析を行う。

ひも¹⁾の端と端を交差させたりくぐらせたりしたあと、ひもの端を外に向かっ

て引くと結び目と呼ばれる構造物ができる。

以下、本稿の構成について述べる。1節では、先行研究をとりあげ、その問題点を指摘する。2節では、多義語²⁾である「結ぶ」の分析を行う。3節では、「結ぶ」の6つの別義間の関係を示す。4節では、本稿のまとめと今後の

課題について述べる。

1. 先行研究

本節では、「結ぶ」の先行研究として、辞書類と柴田武他（1987）をとりあげ、その記述内容を検討する。

『日本語基本動詞用法辞典』では、「結ぶ」の意味として次の7つが挙げられている。①ひもなどを絡みあわせて、かたまり状の物を作る、または、ひもでしばって離れないようにする。②離れている物を何かでつなぐ。③二者の間をつなぐある関係が成立する。④特に男女の間に親密な関係が生じる。⑤焦点や露が生じる。⑥口や手などを固く閉じあわせる。⑦話・文章などを終わる。

さまざま意味が雑然と並べられているにすぎず、また、別義間の関係がわからない。

柴田武他（1987）は、「ムスブ・ユワエル・ツナグ・ククルなど」の中で「結ぶ」を分析し、その意味を①何かそれ自身をととのった形にまとめる、②細長い物で何かを一つにまとめる、③AとBとの間を埋めるように連結するとし、「ムスブの比喩的な用法」も①で説明できると述べている。しかし、例文として挙げられている、「口を一文字にムスブ」「連続講演をムスブに当たって」「帰国第一夜の夢をムスブ」「英国と同盟をムスブ」の「結ぶ」の意味をすべて同様に扱うのは無理があるのではないだろうか。また、①の例文として「ひもで髪をムスブ」、②の例文として「本を三冊重ねてひもでムスブ」が挙げられているが、この2文における「結ぶ」の意味は基本的には変わらない。対象の周りをひもで取り囲み、「一つにまとめる」点では、同じことであるからである。①と②の意味を分ける必要があるのであれば分ける基準を示すべ

きであろう。また、③についても「連結する」としただけでは不十分である。

2. 分析

本節では、「結ぶ」を6つの別義に分け、考察する。まず、分析結果であるそれぞれの別義を示した上で、例文を挙げ、説明していく。

別義1：〈2本のひものそれぞれの片方の端と端の間の距離をなくし、結び目を作ることで、離れなくする〉³⁾

- (1) ひもとひもを結んで長くする⁴⁾。
- (2) 二本のロープを結ぶ方法として、「double fisherman's」という方法が紹介されています。この方法は釣り糸と釣り糸を結ぶのに使われる方法ですよね。

(<http://netafull.net/archives/010533.html>)

- (3) 途中で糸がなくなったら補充して前のものと結び、実質的には一本の長い糸で折り丁の内側と外側を往復して、短冊をはさんで書物のはじめから終わりまでを縫うわけである。

(<http://www.ops.dti.ne.jp/~robundo/BwritingA07.html>)

2本のひものそれぞれの端を交差させたりくぐらせたりしたあと、ひもの端を外に向かって引いた結果、結び目ができ、ひもは1本になり、離れなくなる。3本以上のひもを結ぶ場合も、一本と一本を結んだあと、さらに次の1本を結ぶので、結ぶ動作が行われるのは、常に2本のひもの間ということになる。

別々の物体として存在した2本のひもが、結び目を介して離れなくなったことにより、延長

の意味合いが生じる。「を」格にはひもを表す表現がくる。これはひも自体が弾力を持っているので、結ぶ行為をひも自身で行えるからである。本稿では別義1を多義化の起点であると考ええる。

また、片方がひもではない場合があるが、その場合は、固定に近い意味が生ずる。次の別義2との中間に位置する例であるといえよう。この場合も2者間に存在する距離をなくし、離れなくするという点では、同様である。

- (4) おみくじを枝に結ぶのも、結ぶことにおいて新しい、今までと違った運命が誕生すると考えたのです。

(<http://www.wedge.co.jp/ningenjyuku/040518/index.html>)

- (5) 彼は縄を松の枝に結ぶと、身軽く岩の上へ飛び上った。

(http://www.aozora.gr.jp/cards/000879/files/153_15205.html)

「手を結ぶ」という慣用表現がある。手をひもと捉え、あたかもひもを結ぶようにお互いの手を結び合う姿を思い描いていると考えられる。それは、立場の違う人間同士が何らかの目的のために、(一時的に)同じ立場をとるような場合に用いられるが、そこから互いに協力するという意味が生じる。実際に握手をする場合は「手を結ぶ」という表現はとらない。同じ立場をとるということは、手と手を握り合うような関係であると捉えることであり、類似性に基づくメタファー⁵⁾であると考えられる⁶⁾。また、「手」が省略された例もある。

- (6) 犬猿の仲といわれたヒトラーとスターリンが手を結んだことは世界中に衝撃を与えた。

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8B%AC%E3%82%BD%E4%B8%8D%>)

E5%8F%AF%E4%BE%B5%E6%9D%A1%E7%B4%84)

- (7) 進退きわまった昌綱は、まず武田信玄と結び、ついでかつての仇敵北条氏康・氏政親子と結び、上杉軍に対抗することにした。

(<http://www7.ocn.ne.jp/~htobe/karasawa.html>)

別義2:〈ひもを用い、2つの物体間に存在する距離をなくし、結び目を作ることで、離れなくする〉

- (8) 棧橋の杭と船をロープで結ぶ。

- (9) 互いの体をザイルで結び、ゆっくりと進んでいた二人だが、片方が転落、宙吊りになってしまう。

(<http://movie.maeda-y.com/movie/00469.htm>)

これは、結ばれる物と結ばれる物が、一つ一つ際立っている。どちらもひも状の物ではないので、距離をなくし、離れなくするためには、道具つまりひもが必要となり、「で」格にひもを表す表現が来る。

「結ぶ」はひもに施す行為であるから、「ひもを結ぶ」とすべきである。しかし、「ある程度の弾力を持ち、一定の長さを持つ」という属性を持たない物質には、「結ぶ」行為を直接施すことができないため、「で」格としてひもを表す表現を登場させなければならないのである。(8)の例で「離れなくする」のは、杭と船であり、実際に動作が加えられるのは、それに隣接しているロープなのである。本稿では別義2は別義1からの派生であると考えるが、それを動機付けるのは、空間的隣接性に基づくメトニミー⁷⁾である。

また、「で」格の前の名詞の性質によって、

意味の違いが感じられるようになるが、基本的には「で」格にはひもを表す表現が来る。

次の例は、ひもではなく、道、橋、トンネルなどであるが、一定の長さを備えているという点で、ひもの特徴と重なるところがある。

- (10) この水車通りは、五日市街道と青梅街道を結び、府中街道と平行しているために交通量は多い。

(<http://www001.upp.so-net.ne.jp/takara/text/t45.html>)

- (11) 計画は石垣島から竹富島一嘉弥真島一小浜島一由布島一西表島までの島々を橋で結ぶ壮大なもので、全長は33キロに及ぶ。

(<http://d.hatena.ne.jp/abalone/20060202>)

- (12) 中央アルプスを貫き、伊那と木曾を結ぶ権兵衛トンネルが4日、開通した。

(<http://inamai.com/news.php?r=w&i=200602041958540000007060>)

次の2例は目で見えるひもは存在しないが、ひもを抽象化した線を想定することはできる例である。インターネットとは何かを説明する際に網状の図がよく用いられるが、その網を構成している線を想定できるように思われる。また、ブロードバンド網も同様である。

- (13) 仕事と働き手をインターネットで結ぶ同社の詳細は、こちらへ。

(<http://www.aozora.gr.jp/soramoyou1999.html>)

- (14) 長崎県美術館は、ブロードバンド網などを活用して美術館と離島などの各地域を結び、それぞれの地域に居ながらにして、美術館のコンテンツを活用し、楽しめる事業に取り組み

ます。

(<http://www.nagasaki-museum.jp/information/concept/>)

更に、次の例で「で」格に現れるのは、運命や絆など、関係性となっている。

- (15) ゆみさんから見た彼との相性は大吉で、彼とは強い運命で結ばれています。

(<http://www.cyoki.com/women/love/pages/back30.html>)

- (16) 対照的な二人だが、無二の親友であり固い絆で結ばれている。

(http://www.lala.tv/request_cp/index.html)

次の例では、「で」格がアートや祭りや音楽を表す表現となっている。アート自体はひもでもなく、関係性でもない。共通の趣味ともいうべきもので、それが二者の距離をなくしていると考えられる。次の例のような場合は、心理的な距離をなくすとも言えるだろう。

- (17) アートが人と人を結び、大きなパワーを生み、その力を結集させて作品作りをする。

(<http://www.fujitv.co.jp/m/ainori/miyaken/m66.html>)

- (18) 祭りは人と人の心を結ぶ感動と出会いの場です。

(<http://www.city.joetsu.niigata.jp/contents/history/spot/matsuri.html>)

- (19) このNHKホールをキーとして全国の働く人々を結ぶ音楽会！そして司会は高橋圭三！これが私の狙いだった。

(<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~matu-emk/keizo.htm>)

- (17) ではアートが、(18) では祭りが、(19)

では音楽会が、人を近づかせ、離れなくする役割を担っている。

別義3：〈ひもを用い、物体間に存在する距離をなくし、結び目を作ることで、離れなくし、内容物の動きを止める〉

(20) 古新聞をビニールひもで結ぶ。

(21) 稲の手刈りのやり方を説明、この会場では、集めた稲を束にして稲わらで結びました。

(<http://www.city.sendai.jp/keizai/nourin/owner2004/2004n.html>)

(22) 更にパサパサ気味だったので、髪を結んでいないと広がって大変な事になります。

(<http://ameblo.jp/funmatu/theme-10001487355.html>)

別義2では、二つのきわだつ固体であったが、別義3では、古新聞や稲など、多数の物の集まりであることが多い。(20)では古新聞、(21)では稲わら、(22)では頭髮の周りにひもをかけ、結び目を作り、動かないようにするのである。その結果、古新聞、稲わら、頭髮が一つにまとまり、動かなくなる。縛るに近い意味が生ずる。

別義3も別義2と同様に、実際に動作が加えられるのは、それに隣接しているひもである。別義3は別義1からの派生であると考えられるが、それを動機付けるのは、空間的隣接性に基づくメトニミーである。

別義4：〈ひもを用い、結び目を作ることで、離れなくし、容器に入った内容物の流出をくいとめる〉

(23) 麻袋に豆を入れて、ひもで結ぶ。

(24) クッキーやスティック状にカットし

たケーキをキャンディ包みにして、細めのリボンを結びます。

(<http://reed.lion.co.jp/howto/how20100.htm>)

(25) 腸に詰め終えたら、最後に適当な長さに切って、また腸を結んでおきます。

(http://www.jnsca.or.jp/01ippan/03_01.htm)

(26) ごみがこぼれないように、袋の口はしっかり結んで出しましょう。

(http://www.city.omuta.fukuoka.jp/chiiki/kankyuu/gomi/g3_43d1953c_217.html)

例文(23)のように豆など、粒状の物を袋に入れたあと、ひもで袋の端を結ぶと、袋の口が閉鎖され、結び目があることにより、豆は外に出なくなる。ひもを結んで、結び目を作ったことによって内容物の流出が妨げられるのである。(24)の内容物はケーキであり、袋状の物は、包装紙かラップと考えられる。(25)はソーセージの作り方である。内容物はひき肉、袋状の物は羊の腸である。(26)では、内容物はごみ、袋状の物はごみ袋である。(25)、(26)の例文では、結ぶのは、ひもではなく、腸の端と袋の口であり、袋状の物の一部分である。

別義4も別義1からの派生であると考えられる。派生を動機付けるのは空間的隣接性に基づくメトニミーである。別義3では、ひもの内側に内容物が存在したが、別義4では存在しない⁸⁾。

また、次の例では、上唇と下唇を密着させるのである。密着したことにより、ことばの流出が妨げられ、黙ることになるのである。「きつと」「硬く」などとともに用いられることが多いのは、しっかりと密着させなければ、ことば

が漏れてしまう可能性があるからではないだろうか。

(27) 嘉助ははね上って馬の名札を押えました。そのうしろから三郎がまるで色のなくなった唇をきつと結んでこっちへ出てきました。

(<http://www5a.biglobe.ne.jp/~accent/kazeno/origin4.htm>)

(28) 彼は唇を堅く結んで電話を覗みつけると、鋭いまなざしをぼくに向けた。

(<http://plaza.across.or.jp/~chouette/tbm5.html>)

また、話や文章など内容のあるものの終了を「結ぶ」で表すことがある。スピーチや講演などある程度の長さを持つ話や、文章の終了に多く用いられる。講演を例にとって考えると、講演は通常何かのテーマに沿って話されるものであり、内容を持っている。(23), (24), (25), (26) の例では「結ぶ」が「内容物の流出をくいとめる」ことを見た。講演会は、講師の口から言葉が流出することであり、例えば「ご清聴ありがとうございます」という挨拶を講師が言った場合、これ以後言葉は発せられない。ことばが発せられなければ、講演会は終了するのである。

(29) 辻さんは生涯現役を高らかに宣言して講演を結んだ。

(<http://www.nikkeishimbun.com.br/050202-72colonia.html>)

(30) 「宝塚は私にとって一生の宝物です」と、支えてくれたすべての人たちへの感謝の言葉で結んだ。

(<http://ss.nikkei.co.jp/ss/sozo/2-4.html>)

(31) 彼はまたこの手紙の文末を、「きみに誠実なしもベーしもベーモーツァ

ルト」と結んだが、これはとても意味深長だ。

(<http://homepage3.nifty.com/wacnmt/part4.html>)

次の例は話や文章ではなく、1文の終了の意味で用いられている。

(32) この「こそ」以外にも、係り結びの法則を起こすものがある。係助詞の「ぞ」「なむ」「や」「か」である。これらは、文末を連体形で結ぶ。

(<http://www.morinogakko.com/high/kobun/kakarimusubi.html>)

更に、「結ぶ」の連用形が名詞化した語「結び」で、「終了」の意味を表すことがある。

(32) の「係り結び」の「結び」、(33) の「結びの一番」もそうである。「結びの一番」の「結び」ではすもうの試合というイベントの終了を表すようになっている。

(33) 大関栃東が14勝1敗で13場所ぶり3度目の優勝。栃東は結びの一番で横綱朝青龍を右上手出し投げで破った。

(<http://www.kochinews.co.jp/6sumo/0601sumonews15.htm>)

別義5：〈ひもで結び目を作る〉

(34) それから、度々蝶々結びを結ぶ機会は来たが、いつも適当に結びその場を凌いでいた。

(blog.livedoor.jp/cherinbo/archives/2005-09.html)

(35) あわじ結びを連続して結び、面をつくります。(『楽しい』, 30)

(36) 3枚羽根のちょうちょを手先で1周くると巻き、結び目の上で、下から返した羽根の一枚と手先とで貝の

口を結んでいます。

(<http://www.kimono.co.jp/kic/station/st99.html>)

ひもを結ぶことによって構造物が出現する、つまり結び目を作り出すことである。別義1の「結ぶ」は行為を行うひも全体に焦点があたっていたが、別義5では、その結んだ結果として生ずる「結び目」に焦点があたっている。

(34)の「蝶々結び」、(35)の「あわじ結び」には「結び」という表現が含まれているため、若干違和感を感じるかもしれないが、(36)の「貝の口」⁹⁾のように「結び」という表現が含まれていない場合は、そのような違和感もなくなるのではないだろうか。

別義5は、別義1からの派生だと考えられる。それを動機付けるのは部分—全体関係¹⁰⁾に基づくメトニミーである。

次の2例では、「を」格には、ひもを表す表現がくるので形の上では、別義1・別義2・別義3・別義4の例である。しかし、実際には結び目に焦点があたっている。

(37)ネクタイを結ぶ

(38)帯を結ぶ

ネクタイを結ぶ際に作り出す結び目は、一般的にはプレーンノットという結び方で、帯の場合は、名古屋帯であれば一重太鼓、袋帯であれば二重太鼓という結び方が圧倒的に多い。本来なら、「プレーンノット（一重太鼓、二重太鼓）を結ぶ」という言いの方が正確である。ネクタイや帯の結び方は他にもあるからである。しかし、実際には、「ネクタイ（帯）を結ぶ」という言い方のほうが、自然に感じられる。これは、ネクタイであれば首にプレーンノットを、帯であれば着物を着用した上で、胴の背中側に一重太鼓（二重太鼓）を結ぶという行為が繰り返されるうちに、「ネクタイ（帯）を結ぶ」こ

とはしかるべき場所にプレーンノットや一重太鼓（二重太鼓）を結ぶことだと認識されるようになったためであり、これは時間的隣接性に基づくメトニミーであると考えられる。

別義6：〈塊状の物を作る〉

(39) お結びを結ぶのにも、ご飯つぶをつぶさないように結びます。

(<http://plaza.rakuten.co.jp/mammadeli/diary/200509070000/>)

(40) その建礼門院は、寂光院の傍に庵を結んだ。

(<http://www.kyotokanko.co.jp/momiji/ohara/shiseki/jakukoin.html>)

別義5はひもで結び目を作ったが、別義6で用いる物はひもではなく、できる物も結び目ではない。しかし、出来上がった構造物は、塊状であり、結び目に形状が類似している。別義5からメタファーによって派生した意味であると考えられる。

(39)の「お結び」は、米粒で作る三角形や俵型などの形をした塊である。また、(40)の庵は建造物であるが、ビル状の高い物でもなければ、長屋のように長く連なる家屋でもなく、こじんまりした建物である。その形状はやはり結び目に通じるところがあるように思われる。

上の例では、お結びも庵も動作主体の意志が感じられたが、感じられない例もあり、その場合は、出現の意味合いが生じる。次に示す例文の露やゆずやカタクリは、人の意志で直接作り上げられる物ではない。露を結ぶためには、気象条件が影響し、果実が実を結ぶためには、肥料や水を与えるなど、人が間接的には関与できるが、実ができるできないは人が直接関与してなされることではないからである。

(41) 早朝わずかに大気の温度が下がっ

て、草木の葉先に水晶の玉のような美しい露を結ぶ。

(<http://www.plantatree.gr.jp/24/15hakuro.html>)

- (42) ゆずは中国産の常緑樹で、日本各地で広く栽培されています。大型の緑色の果実を結ぶ、やがて鮮やかに黄熟していきます。

(<http://www.hosen-tea.co.jp/hitorigoto060802.html>)

- (43) カタクリは、木々が葉を広げる頃には実を結ぶ、来年の春にそなえた栄養分を作り終えた葉はすでに枯れはじめています。

(<http://www.tsm.toyama.toyama.jp/public/t-nature/satoyama.html>)

現代語では、果物の実ができる場合には、「実を結ぶ」という表現より「実がなる」という表現のほうが多く用いられる。(44)のように、ある一定の成果を挙げた場合に「努力」などが「実を結ぶ」と慣用的に用いられることが多い。

- (44) 日本でも NGO のあげる声は次第に大きくなり、これまでの地道な努力が実を結び、社会的にも認められつつあります。

(<http://eco.goo.ne.jp/education/books/nyumon01.html>)

この慣用表現は、努力を続けた後に出る結果や成果と、ある一定の時間を経た後、果物の実が出現することに類似性を見出したからであると考えられる。

結んでできあがる構造物は、形のあるものばかりではない。同盟、条約、協定、契約などの表現が構造物とみなされ、「を」格に現れる。ひもを結ぶことによって結び目ができるように、何かをする際に、話し合い、合意した結果、

同盟や条約などができあがるのである。ひもをくぐらせたり、交差させたりする過程を話し合いに、結んでできた結び目を合意にそれぞれ対応させているのではないかと思われる。成立するという意味合いが生じる。

- (45) 1858年7月29日、日本とアメリカが神奈川（現在の横浜）で日米修好通商条約を結んだ。日本が外国と結んだ最初の条約である。

(<http://www.hps.hokudai.ac.jp/hsci/stamps/1858a.htm>)

- (46) 群馬大学は産学連携を進めるため、平成17年03月31日に東和銀行、群馬銀行、三井住友銀行そして中小企業金融公庫の4大金融機関と協定を結んだ。

(<http://www.ccr.gunma-u.ac.jp/News/200506/News2005060210.html>)

- (47) イギリス人の少年、Niall Mason 君（7歳）がこの度サッカーの名門レアルマドリッドと契約を結び大きな話題となっている。

(<http://azoz.org/archives/200409161331.php>)

また、「夢を結ぶ」という表現があるが、これは、ひもを結ぶことにより結び目ができるように、眠ることによって夢というある構造を持ったものが形成されることから「結ぶ」が用いられると考えられる。

- (48) やがて舟は荒瀬波の港につながれ、川ぶちに近い宿では、主従五人が酒を汲みかわし、ひと晩の夢を結んだ。

(<http://www.iwafune.ed.jp/t/kyoudo/narumi/narumi11.html>)

更に、手の動きの軌跡を重ね合わせた中心に構造物が浮かび上がる(49)のような例、結

び目ができあがる過程に焦点がおかれているのではないかと考えられる(50)のような例、構造物から更に抽象化された形状である点として捉えたと思われる(51)のような例もある。

(49) 武将が呪文を唱えながら印を結ぶと頭上付近に無数の石が浮かび上がり掛け声とともに敵陣へ飛でいく。

(http://www.gamecity.ne.jp/products/products/ee/new/kessen2/kessen2_07.htm)

(50) 目に入った光は角膜と水晶体で屈折し、網膜で像を結んで、私たちはものを見ることができます。

(http://www.banyu.co.jp/sukoyaka/byouki/kin_en_ranshi.html)

(51) 近視とは網膜の手前に焦点を結ぶため、網膜に光が届いたときにピンぼけの映像になるのが近視です。

(http://www.jlife.jal.co.jp/past/health/yak_01_41_r01.html)

なくし、内容物の動きを止める)

(20) 古新聞をビニールひもで結ぶ。

別義4: <ひもを用い、結び目を作ることで、離れなくし、容器に入った内容物の流出をくいとめる>

(23) 麻袋に豆を入れて、ひもで結ぶ。

別義5: <ひもで結び目を作る>

(36)' 貝の口を結ぶ。

別義6: <塊状の物を作る>

(40)' 庵を結ぶ。

なお、別義1, 2, 3, 4からは<結び目を作ることで離れなくする>, 別義5, 6からは、<構造物を作る>という共通の意味成分が抽出可能である。

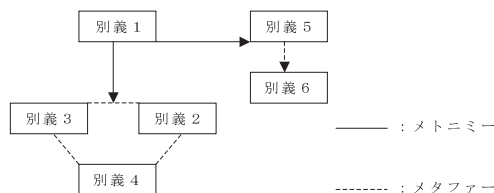


図 「結ぶ」の多義構造

3. 「結ぶ」の多義構造

本稿で明らかになった別義とその例文¹⁾を以下に示し、図に多義構造を示す。

別義1: <2本のひものそれぞれの片方の端と端の間の距離をなくし、結び目を作ることで、離れなくする>

(1) ひもとひもを結んで長くする。

別義2: <ひもを用い、2つの物体間に存在する距離をなくし、結び目を作ることで、離れなくする>

(8) 棧橋の杭と船をロープで結ぶ。

別義3: <ひもを用い、物体間に存在する距離をなくし、結び目を作ることで、離れ

本稿では別義1が多義化の起点であると考えられる。別義1から別義2・別義3・別義4と別義5がメトニミーにより派生したと考えるが、前者は空間的隣接性に基づくメトニミー、後者は部分—全体関係に基づくメトニミーである。また、別義2・別義3・別義4は互いの類似性に基づくメタファーの関係であるが、派生の順序が特定できないため、線で結んだ。別義6は別義5からメタファーにより派生したと考えられるので矢印で示した。別義6は別義5を更に抽象化したものと考えたからである。

4. おわりに

本稿では「結ぶ」の意味分析を試みた。分析

結果に基づき、6つの意味に分けることを提案した。6つの意味は別義1・別義2・別義3・別義4と別義5・別義6に大きく分けられ、前者からは、〈結び目を作ることで離れなくする〉、後者からは、〈構造物を作る〉という共通の意味成分を抽出できることが明らかになった。

本稿では、別義1を派生の起点として、5つの意味が派生しているとしたが、基本義であるとは述べていない。「結ぶ」の基本義については、今後の課題としたい。

注

- 1) 本稿では「ひも」を、ある程度の弾力を持ち、一定の長さを持つ物とする。
- 2) 多義語について国広(1982)は次のように定義しており、本稿でもこれに従う。
「多義語」(polysemic word)とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結びついている語を言う。(P.97)
- 3) 本稿では、意味を〈 〉で括弧で示す。
- 4) 本稿の例文で出典を示さないものは作例である。実例については出版物及びweb上に公開されている諸文書(検索エンジンgoo(<http://www.goo.ne.jp/>)にて検索)を参照した。分析対象語には下線を引いた。
- 5) メタファーは、以下の栩山(2001)の定義に従う。
二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喻。
- 6) 手と手を握り合ったのちに、お互い協力的に行動すると考えれば、時間的な隣接性に基づくメトニミーであるとも考えられる。
- 7) メトニミーは、以下の栩山(2001)の定義に従う。
二つの事物の外界における隣接性、あるいは二つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、

他方の事物・概念を表すという比喻。

- 8) 厳密に言う、例文(23)、(24)、(25)、(26)の場合、内容物が入っている袋や包装紙はひもの内側に存在するが、無視してもよいほどの存在になっている。(20)の例文の場合の新聞とは明らかに異なっている。
- 9) 半幅帯で結ぶ帯結びの1種である。
- 10) 栩山(1998)では、隣接関係に基づく比喻、部分-全体関係に基づく比喻、類-種関係に基づく比喻、という3種の比喻の相互関係をめぐって対立する諸説を整理し、検討した上で、部分-全体関係はメトニミーに含むのが妥当であると結論づけている。本稿でもこれに倣い、部分-全体関係はメトニミーであるとする。
- 11) 例文(1)、(8)、(20)、(23)は再掲、(36)、(40)は例文を短くし、若干修正を加えた。

引用文献

- 国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店
柴田武・国広哲弥・長嶋義郎・山田進(1987)「ムスブ・ユワエル・ツナグ・ククルなど」『ことばの意味1』平凡社
栩山洋介(1998)「換喩(メトニミー)と提喩(シネクドキー) — 諸説の整理・検討 —」『名古屋大学日本語・日本文化論集』, 6: 59-81, 名古屋大学留学生センター
栩山洋介(2001)「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」山梨・辻・西村・坪井編『認知言語学論考』No. 1.29-58 ひつじ書房

辞書類

- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹編(1978)『日本語基本動詞用法辞典』初版

用例出典

- () 内にURLを示したもの: 検索エンジンgoo(<http://www.goo.ne.jp/>)にて検索

「結ぶ」の意味分析

『楽しい』：瀬戸信昭『楽しいひも結び』日本ヴォーグ社